

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内 1 丁目 3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1126 2014年 1 月号



夜明峠から見た石鎚山（愛媛県西条市）

年頭のあいさつ

四国森林管理局長 新木 雅之



明けましておめでとうございます。

昨年は、政府の成長戦略が策定される中、林業にいても成長産業化に向け、中高層建築での利用が期待されるCLT(直交集成板)等の開発普及による新たな木材需要の創出や、公共建築物の木造化、木質バイオマス利用、木材利用ポイ

ント事業を通じた地域材の利用促進、需要者ニーズに的確に対応した国産材の安定供給の構築等を進めることとされました。

このような中、四国では、高知県大豊町の大型製材工場が八月に操業を開始し、また徳島県小松島市で大型製材工場の建設が九月に開始され、さらに高知市、宿毛市等で木質バイオマス発電の計画が進められるほか、産官学によるCLTの開発普及の取り組みが始められる等、森林・林業の活性化に向けた数々の動きが見られました。

一方、国有林野事業については、昭和二年以来長きにわたり特別会計で運営していましたが、法律改正により昨年四月から一般会計で実施する事業に移行しました。これに伴い、国有林の公益的機能の発揮をより一層重視した業務運営を行うとともに、民国連携を強化し、民有林振興、地域活性化に更に貢献することと致しております。このため、四国森林管理局においても本局に業務管理官(次長)、徳島、愛媛、安芸の各森林管理署に地域林政調整官を設置する等の組織改正を行ったところです。

明けて新年においても、引き続きこのような方針の下、「新生国有林」としての業務運営に取り組んで参ります。

特に四国の国有林は四国山地の奥地脊梁部に多く存在していることから、水源涵養、国土保全、地球温暖化防止等の公益的機能の十全な発揮に向け、多様で健全な森林の育成や、国民の皆様の安心・安全を確保する治山事業を積極的に推進するほか、関係機関と連携しつつ地域の状況に応じたシカ被害対策に取り組ま

す。また、低コストで高効率な施業による安定的・計画的な木材供給を図るとともに、大口需要者向けのシステム販売の適切な運営を図り、地域材の需要拡大を支

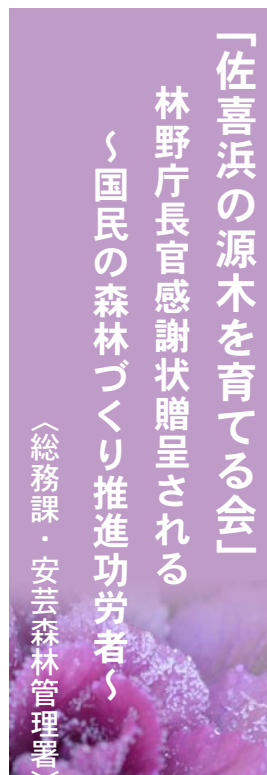
援して参ります。さらに、民有林と連携した森林共同施業団地の推進、国有林の組織・技術・フィールドを生かした先進技術の開発改良、フォレスト等の人材育成に取り組めます。

そして、豊かな国有林の環境をレクリエーションや森林環境教育等の場として提供するとともに、国民の皆様の森林・林業・木材利用へのご理解を深める普及活動に努めます。

新年においても「国民のための国有林」として、皆様のご期待ご要望に応えられるよう努力しながら、地域と共に歩んで参る所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



感謝状贈呈後：右から吉永計画保全部長、永山安芸署長、田村会長、高田氏



「佐喜浜の源木を育てる会」

林野庁長官感謝状贈呈される

「国民の森林づくり推進功労者」

〈総務課・安芸森林管理署〉

一二月五日、国民の森林
づくり推進功労者として、
当局から推薦しました「佐
喜浜の源木を育てる会」に
長 田村 拓 への林野庁

長官感謝状の贈呈が高知県
室戸市役所において、吉永
計画保全部長より行われま
した。

「佐喜浜の源木を育てる

会」は、高
知県室戸市
佐喜浜町の
地元の有志
が集まり、
地域の活性
化を促進す
ると共に地
元小中学校
児童生徒の
健全な育成
を支援する

では、「大敷網を使った漁
の体験」、ホエルウオッ
チング、川の宝では、林間
学校での川遊び等様々な体
験活動を行っています。
山の宝では、江戸時代の
参勤交代にも使われた古い
歴史のある野根山街道、大
規模崩壊の後、治山事業で
緑に回復した「加奈木のつ
え」、また、佐喜浜川上流
の野根山街道に続く段ノ谷

ことを目的に発足しまし
た。

「育てる会」では、海、
川、山、伝統文化をそれぞ
れ「宝」として守っていき
次世代に残していくこと、
そして地域外の人にも佐喜
浜町を知ってもらい、地域
を元気にするために、海、
川、山等を活用し、海の宝



悟空杉（段ノ谷山の巨木）

山（個性的な外観を持つ巨
大天然杉）を活動の場とし
ており、年間、小中学校を
対象に森林環境教育を五
回、約四〇〇名、一般見学
者を対象としては、随時開
催で、延べ約三〇〇名の見
学者の案内を行っていま
す。この大半が安芸森林管
理署管内の国有林です。

また、平成二三年には室
戸ジオパークが世界ジオ
パークに認定され、「加奈
木のつえ」と段ノ谷山がジ
オサイト（見所）に登録さ
れ、授与に至ったものです。
このことを機会に、段ノ
谷山等には、多くの見学者
が訪れ、なお一層、「育て
る会」の活動が期待される
ところ。今後も、「育
てる会」と安芸森林管理署
が相互に連携協力し、森林
環境教育及び森林散策など
を実施し、段ノ谷山等に多
くの方が訪れ交流すること
により、地域の活性化及び
国有林への貢献度が高いこ
となどが認められ、感謝状

木質バイオマス

現地検討会の実施

〔資源活用課〕

高知県内で計画されている木質バイオマス発電事業の取組の中で、国有林のフィールドにおいて、未利用間伐材等の供給に係る現地検討会を、一月一〇日

より一日に四万十森林管理署管内で実施しました。現地検討会は、資源活用課、四万十署、高知県、関係団体から一二名が参加するなかでの開催となりました。

また、現地検討会では、

立木販売箇所や保育間伐活用型事業箇所等で、林内に残っている末木枝条の現状を確認するなかで意見交換を行い、木質バイオマス原料となる林地残材の搬出方法等について、供給側、需要側それぞれの視点で検討を深めました。今後は試行的な取組として、林地残材

の効率的な搬出方法などデータ収集等について国有林を活用して取り組むことなど、多岐にわたる意見交換を実施しました。

なお、今後もそれぞれの課題を更に掘り下げ検討

を進めていくこととしており、引き続き情報交換等を行いながら、国有林として木質バイオマス発電事業の円滑な推進に協力していくこととしております。

木を使ったおもちゃ遊び及び木工教室

〔技術普及課〕

一月二四日、高知県土佐市立高岡第二小学校において、木を使ったおもちゃ

に、木を使ったおもちゃ遊びと、木工教室の依頼があったものです。

遊び及び木工教室を実施しました。

当日は、木を使った特殊なけん玉など、八種類の

これは、校区のイベント「第八回山の手ふれあいフェスタ」の体験学習コーナーの一つとして、実行委員会から四国森林管理局

を使ったゲームの達人に認定され、「ジージージェミ」を作る木工教室に参加できるコーナーを設け、幼児か

木工教室



ら中学生約二〇〇名がゲームに挑戦しました。(幼児や園児は作ることが難しいことから、完成品をプレゼントしました) なかには、付き添いで来られていた大人が、「なかなか難しい」と真剣な表情で、子どもと一緒に挑戦していたり、難しいゲームに失敗しても諦

現地検討会



めず、何度も頑張ってチャレンジしてくれる子、「また参加しに来た」と言って何回も楽しんできた児童もいて、大盛況でした。

また、木製ゴム鉄砲射的大会を四回開催し、約五〇名の児童達が一等賞品（木製メダルとゴム鉄砲）を目指して参加してくれ、大変な賑わいとなりました。

今回のイベントでは、児童のみならず、幅広い年代の方々に対して、木の良さを体験してもらい、国有林野事業のPRにも努めることができました。

神田小学校で『一日先生』

〔技術普及課〕

一二月一日、高知市立神田小学校において木工教室を行いました。

このイベントは、各学年のPTAが主催し、「一日



木工教室

先生」として、色々な職種の方々を講師として招くものです。今回は、一年生から要請を受けました。

当日は、児童八四名、その父母九〇名、先生三名と大人数ということもあり、いつもと趣向を変え、森林の役割や大切さについて「〇×クイズ」形式にした森林教室を行いました。一年生には、少し難しい問題もありましたが、一人で一生懸命考える子、親子で悩

む子、難なくすらすらと答える子、と様々で、一問ずつ答え合わせをする度に、「やったー」「あー」と歓声が上がり、大変な盛り上がりでした。当初の心配をよそに、全問正解者が九名もいて、補足説明も熱心に聞いてくれていました。

木工教室は、糸電話を応用した「ジージーゼミ」を作りました。作製する前に、このセミがどうしてなのかの説明から入り、回し棒に松ヤニを塗ったものと塗っていないものや、竹ではなく、木で作ったセミを実際に回して比べてみたり、糸電話を使って音の伝わり方を学習してからセミを作りました。セミの羽根に苦労している子もいました

が、子ども達は早くセミをならしたかったのか、あつという間に完成させ、体育館中に響き渡る、真夏さながらの八四匹のセミの大合唱となりました。

最後は、OB正岡さんの手作りの木のおもちゃ（パズルやゲーム、けん玉など）で皆が思い思いに遊んで終了しました。こちらも、木製で、しかも手作りということで、父兄からも大変好評でした。

子ども達の笑顔から木に興味を持ってもらえたようで、短い時間でしたが、木の良さが伝わったのではないかと思います。一日先生となりました。

各地のたより



滑床山の順調な

植生回復を確認

〈ふれあい推進センター〉

好天に恵まれた一〇月

二二日、滑床山頂（通称三

本杭）において関

係機関、ボランティア

ア団体等の関係者

二八名が参加して、

第九回滑床山植生

回復検討会を開催

しました。

滑床山頂周辺は、

愛媛県宇和島市及

び松野町、高知県

四万十市にまたが

り、かつてはミヤ



「滑床山頂」での意見交換

周辺の植生回復に取り組んでいます。

九回目となる今回の検討

会では、平成一九年三月に

シカ防護ネットを設置した

「たるみ」及び「滑床山頂」

に移植したミヤコザサが順

調に拡がり繁茂しているこ

とや、現地にある枯れ木な

どの資材を活用した簡易な

土留め措置によって、リョ

ウブやウリハダカエデなど

の稚樹の発生を促し、土壌

の流出防止の効果が現れて

いる状況などを確認しまし

た。

当センターからは、吊り

尾根の「熊のコル」周辺

等のギャップに、シカ防護

ネットを設置すること、「山

頂」や「たるみ」及び「藤ヶ

生越」のネット内は、植生



「たるみ」で植生の回復を確認

きな影響を及ぼす高いレベルにあることなどが報告されました。

出席者からは、

ハンターの捕獲

での個体数調整

とシカ防護ネッ

トの設置等、引

き続き関係者が

連携してシカ対

が順調に回復しており、経過を観察していくことを提案し了承されました。

また、滑床山頂周辺でニ

ホンジカによる剥皮被害な

どを調査している（独）森

林総合研究所四国支所か

ら、ネット外では継続的に

食害が発生していること

や、ニホンジカの生息密度

は依然として自然植生に大

策に取り組む必要性などについての意見が出されました。

当センターは、モニタリ

ングを継続しシカ防護ネッ

トの保守点検等に努め、関

係者、ボランティア等と協

働して植生回復に取り組ん

でいくこととしています。